

第3回札幌ジャズオーディオ鑑賞会 報告

日時:2010年6月26日(土) 17:00~19:40 場所:MITUYA' CAFÉ

報告者:畔田俊彦(札幌ジャズオーディオ鑑賞会代表)

内容

1. 今回の鑑賞会では、まず大阪からお越し頂いた金田元教授の教え子である五島昭彦氏の音源の鑑賞から始まりました。五島さんが曲を紹介しながらサウンドデバイス製の802レコーダーに記録されているライブ音源を聞かせて頂きました。



← 録音や曲の紹介をしている五島明彦氏

以下の音源を視聴。(但し、時間の関係で途中で終了)
マグナス・ヨルト・ピアノトリオ(横浜ドルフィーでのライブ録音)
マグナス・ヨルト・ピアノデュオ(新宿ピットインでのライブ録音)
マグナス・ヨルト・ピアノトリオ(吉祥寺サムタイムでのライブ録音)
ビッグバンド(京都コンポーザービッグバンドのライブ録音)

これらは全て五島さんが自らライブ録音されたもので、
無指向性 DC マイクによるワンポイント録音とのこと。

たいへんなリアリティでスタジオ録音とは別世界の感動でした。ライブの空気感や演奏者の躍動感までも記録されていました。これらの録音技術の一つの方向性を示したものだと思います。

五島氏が持参したサウンドデバイス製の802レコーダー
(右写真内の上)と自作された金田式 D/A コンバーター&
プリアンプ(右写真内の下) →



いずれもバッテリーで動作させていました。
金田式 D/A コンバーター&プリアンプは、
+7.2V 及び -4.8V で駆動される。
(この製作に関しては本年2月号の MJ 誌に掲載)

次に6月10日にタイムマシーンレーベルよりリリースされた CD「ホリーランド／藤井貞泰ピアノトリオ」より

- 1) It might as will be spring
- 2) Misty

の2曲を鑑賞して五島氏の視聴時間を終えました。五島さんありがとうございました。



MITUYA' CAFÉ で販売された CD

この「ホリーランド」は本年3月に秋田県大潟村 河内スタジオで録音されたライブ CD です。金田先生自ら録音されたものです。ライブの臨場感が忠実に再生されていました。現在の録音技術による装飾された音源と比べるとあまりにも素朴な音で迫りもほど遠いかもしれませんが、臨場感・現場の緊張感・演奏者の躍動感を見事なほど伝えていました。正に「目から鱗」の感動です。Simple is Best !

五島氏は人間の耳は、全方位からの音を捉えることが出来自然界の中での危機感やその反対に快感も感じ取れる器官であり、オーディオも快感として捉えるべきとのこと。

2. 続いて旭川から参加して頂いた臼井鑄鉄工業(株)の社長臼井憲之さんが製作・販売されている CASTRON シリーズのスピーカーで CD を視聴しました。

- 1) In my own sweet way / 笹島明夫(アルバム two for the muse)
- 2) Road Song / 笹島明夫(")
- 3) For all we know / 松山いずみ(アルバム カンパニー)
- 4) 浜辺の歌 / 杉田智子(アルバム メモリー・オブ・ザ・ノーザン・レイク)
- 5) スペイン / MIZUHO(アルバム 翼)

* これらの曲は、当鑑賞会でサンプル的に視聴しているアルバムから選びました。

また最後にプロの方がサウンド・チェックでよく使用されている「カンターテ・ドミノ」(1976年録音スウェーデン)から JLSANG を聴きました。録音された教会の大きさまで伝わってくるような透明感でした。



← スピーカーの開発いきさつなどについて説明する臼井憲之社長。

今回は、フルレンジの CASTRON MK2 と低音ユニットの GON(厳)の組み合わせで視聴しました。

CASTRON は世界初の鑄鉄によるスピーカーで今回ほとんどの方が初めてその音を聴きました。

鉄というイメージから想像できない程の繊細で滑らかな音にただ感動でした。新しい音の響きに会場からも驚きの声があがりました。今回はフルレンジの CASTRON MK2 とウーハーの GON という2つのスピーカーで視聴しました。今回持ち込んだスピーカーは全部で 100kg 以上の重さになるとのことでした。



← フルレンジの CASTRON MK2 と低音ユニットの GON(厳)の組み合わせ。

GON の上に CASTRON MK2 を乗せる形式になっている。(これが CASTRON MK3 というシリーズになる予定と説明された。)

フルレンジの CASTRON MK2 だけでも実に優雅に鳴っており、更に GON が包み込むような低音を再生し、見事な音のバランスと透明感の高い音を再現した。

後ろにある JBL4348 と聞き比べてもなんら遜色のない音であることが体感できました。オーディオ好きが高じて製作したとことで、音はさすがに見事でした。

会場内には、CASTRON MK1 のシリーズなども展示されたが、時間の関係で音が聴けなかった。次回は MR1 の音も是非聴かせて頂きたいと思います。

臼井さんありがとうございました。



3. 関井氏(Moon Cold Studio 代表)による2トラ38で聴くサブマスターテープシリーズ

山本剛トリオによる「ミッドナイトシュガー」(1974年3月録音)を鑑賞しました。

- 1) Midnight Sugar
- 2) I'm a fool to want you
- 3) It could happen to you

演奏者・山本剛氏の力強いタッチでかつ繊細な感覚が、はっきりと伝わってくる音でした。

関井氏は、「演奏者の心遣いまで聞き取れるようにチューンするのがPAの目的です。」と仰られてました。まるで演奏中の状況が見えてくるかのような感覚でした。



「ミッドナイトシュガー」の録音や演奏者についての説明をする関井氏

今回、スタジオモニター様式として再生システムを調整したことを説明された。

全体的に少し固めの音に感じられたが、透明感があった。どちらかというとメリハリよりもまとまった響きに感じられた。やはり一般コンシューマ向けとは明らかに違った音だと感じました。

モニター等について説明する関井氏

今回も4348をモニタースピーカーとして使用。アンプはCROWNのD45とD75Aを使って2wayマルチにて再生が行われました。

但し、音の調整は前日に半日かけて行われました。更にデジタル音源と金田式D/Aコンバーターとアンプ・铸铁スピーカーまでの音響設定を鑑賞会の開催直前まで行われておりました。

関井さんいつもありがとうございます。



現在、STUDERの2トラ38のハードやサブマスターテープなどのソフトが可聴状態にあるのは、国内ではおそらく関井さんのライブラリーだけではないかと思われます。今回のゲスト五島さんもたいへん驚かれておりました。

おそらく関井さんのプロとしての保管状態の良さや北海道の気候風土も関係していると思います。

今後も鑑賞会では、この「2トラ38で聴くサブマスターテープシリーズ」を続けて頂けるよう調整していく所存です。

4. その他

1) 金田式メインアンプ(福澤宏紀氏製作)

今回、金田式メインアンプを福澤氏からご提供頂きました。そこで第1部と第2部はこのアンプで再生しました。最初、鑑賞会前の調整しておりましたが、時間が経つにつれ音が鳴り始めました。福澤氏のお話では、アンプに電流が流れ始め熱が発生してきたほうが鳴りが良くなるとのことでした。



福澤氏製作によるメインアンプ
金田式と窪田式

今回は、金田式の他に窪田式のアンプもご提供頂きました。

福澤氏は北海道ではアンプ作製に関して第一人者の方です。その福澤氏が金田式アンプはシンプルが基本であり、材料や製造方法によって鳴り方がまったく違う繊細なアンプであるともお話されていました。

前回は金田式 D/A コンバーターをご提供頂きました。福澤さんいつもありがとうございます。



鑑賞会で視聴する
福澤宏紀氏

2) ケーブル

開催前に音の状況をチェックする関井氏と五島氏。→

アンプからのスピーカーへのケーブルをいろいろと変更しながらベストサウンドを目指しました。結局、CASTRON MK2 へは、片 CH に 3 本のケーブルを並列につないで鳴らしました。これは音の情報量を増やし、理想の鳴りに近づけるためプロの技だそうです。



関井氏は、毎回スピーカーへのケーブルを銀線・銅線・メッキなし等いろいろと変更し、更に接続するケーブルの本数(2本並列など)も調整しながらスピーカーの音の調整を行っております。

その関井さんは普段からスピーカーのケーブルにはお金をかけるなど仰っております。更に自分の耳で確かめながらケーブルを接続するのが基本だと。

今後、鑑賞会ではケーブルによるスピーカーの鳴り方の違いなども関井氏にレクチャーをお願いしていこうと考えております。

参照: オーディオシステム系統図1及び系統図2